後期学校関係者評価考察

文責　教頭　河野　太郎

はじめに

本校では，これまで長年にわたり【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】の「五本の木」が校訓として受け継がれてきている。この校訓を受けて，「学びを深め，豊かな心をもち，たくましく生きる児童の育成」を令和６年度も学校教育目標に掲げ，学校長をリーダーに全職員が一丸となって児童の育成に携わっている。

小中一貫校（白根巨摩中学区）目指す児童生徒像「思いやり，創造力，すこやかな体をもち，未来を担う白根こまっ子」を念頭に，白根東小学校の目指す児童像「情報や考えなどを的確に理解し，判断の根拠や理由を明確に示しながら，自分の考えを述べることができる児童」を実現するために，教職員一人一人が日々の教育活動に取り組んでいる。

学校教育目標の達成や目指す児童像を目指していくためには，教職員の力だけでは大きな成果には向かっていけない。また，地域に開かれた学校・教育課程を創っていく上でも，保護者や地域の声に耳を傾け，学校・保護者・地域も一丸となって学校のことを考えていく必要がある。

今回行われた学校評価（教職員・児童・保護者）の結果を真摯に分析し，その改善点を明確にするとともに，保護者や地域と連携しながら日々取り組んでいかなければならないと考える。

「A」（あてはまる）「B」（どちらかというとあてはまる）を肯定的意見，「C」（どちらかというとあてはまらない）「D」（あてはまらない）を否定的意見ととらえる。

まず「自己評価」については，すべての項目について肯定的意見が９０％以上となっている。一部，Ｄ評価の項目もあるが，これについては「（担任をもっていないため）回答できない」というものである。アンケートの回答について，来年度改善が必要である。

児童アンケートの肯定的評価は１５項目中１３項目が９０％以上，２項目で８０％台という結果であった。さらに保護者アンケートにおいても肯定的評価は１６項目中１５項目で 90%を超えており，全体的にみておおむね満足できる状態であるといえる。ただ，全体的に昨年度と比べてＢ評価が多くなり，Ａ評価が減ってきている。この点については，再度各教育活動について振り返り，子供たちの実態に合った活動を考えていく必要がある。

学習面では，校内研究を中心にＯＪＴも採り入れながら，「関わり合い　高め合う　『ひがしっ子』の育成～ＩＣＴを活用した個別最適な学び・協働的な学び～」のテーマに迫る研究を行うことができた。新採用の職員をはじめ，若手の育成も考えながら，今後も子供たちに返る研究を進めていきたい。

【学習面に関わって】

自己評価（教職員）⑥「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」

児童評価⑧「授業はわかりますか。」

保護者評価④「お子さんは，授業の内容がわかっていると思いますか。」

保護者評価⑦「学校は，基礎学力定着のために指導をしていると思いますか。」

自己評価⑥の肯定的評価が 100%となっており，教職員は皆，基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めていることが分かる。児童評価⑧も肯定的評価が９７％（A５７％ B:４０％）と高いものとなっている。保護者評価④は肯定的評価が８９％（A１６％　B７３％）と高いものの，A 評価が低い数値になっている。保護者評価⑦も肯定的評価は９５％（A１５％ B８０％）と高いものの，B評価が高いことは気になる。自己評価・児童評価と保護者評価の認識の違いを意識しながら学習（授業）を進めていかなければならない。引き続き，基礎基本を重視しながら「分かる喜び」を味わわせ，学力を伸ばしていけるような取組を進めていく必要がある。特に，一人一台端末は，個々の進度に合わせて学習を進めることができる点で効果的な取組が期待できる。引き続き，授業の中で有効活用していきたい。

児童評価⑩「授業（勉強）でわからない時には，先生に聞いていますか。」の肯定的評価は 91％（A57％　B34％）となっており，前期の数値とほぼ同じである。児童の「わかる・できる」そして「楽しい」という授業を目指していくことで，学習面でも信頼される教師になることができるはずである。引き続き，子供たちがわかる授業づくりを目指していきたい。

⑪「授業中に，手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか。」の肯定的評価は，７７％（A３９％　B38％）である。自らの意見を発信することが苦手である児童が若干多いという状況が分かる。目指す児童像は「情報や考えなどを的確に理解し，判断の根拠や理由を明確に示しながら，自分の考えを述べることができる児童」であるからこそ，授業での指導方法の工夫や児童自身が安心して考えを発表できる環境づくりに，今後も力を入れていく必要がある。

保護者評価⑤「お子さんは，家庭で勉強する習慣がありますか」については，肯定的評価は９０％（A26％　B６４％）であった。ほぼ昨年度と同じ傾向にある。家庭学習の定着はとても大事なことであり，学校では「家庭学習強化週間」等も行っている。ご家庭の協力を得る中で，家庭学習の定着をさらに高めていきたい。また，一人一台端末の持ち帰りも行っているので有効活用していきたい。

【学校生活に関わって】

校訓「やる気」「元気」「根気」「勇気」「思いやり」に関わっての児童の回答は，①～⑤のすべての項目において肯定的評価が ９０％以上となっている。児童は前向きに学校生活を送っていることが分かる。日々の授業実践や様々な取組等を行う中での成果であると考える。児童が生き生きと学校生活を今後も送れるよう引き続き丁寧な教育活動を行っていきたい。

児童評価⑥「学校は楽しいですか。」について，肯定的評価は９２％（A65％ B27％）である。C（6%），D（２％）と回答した児童には，担任等が丁寧な対応を行っている。

保護者評価②「お子さんにとって，学校は楽しいところだと思いますか。」については，肯定的評価が９４％（A３０％ B64%）である。昨年度に比べ，A評価が少なくなっている点が気になるところである。

子どもたちにとって学校が楽しいと感じることは，学校生活を送る上で最も重要である。今回の調査でも昨年度同様肯定的意見が多かったが，やはりCD評価があることについて，しっかりと受けとめ，今後も一人一人に寄り添った教育を行っていくことが大切になる。本校では，スリンプルプログラムも定期的に行い，同じクラスの仲間とのコミュニケーションを深めているので，その時間を有効に活用していきたい。

【家庭での様子に関わって】

児童評価⑬「学校での様子を，家の人に話していますか。」

保護者評価①「お子さんと，学校の様子などを話していますか。」

児童評価⑬の肯定的評価は 87%（A63%　B24%）である。また，保護者評価①も肯定的評価は 100%（A44%　B56%）と高い評価となっているが，児童評価との違いが見られるので、改めて子供たちにも家庭でのコミュニケーションの大切さを伝えていきたい。

【学校と保護者・地域との連携に関わって】

自己評価（教職員）⑬「保護者・地域（及び関係機関）との連携・協力に努めていますか。」

保護者評価⑭「学校は，保護者や地域と連携・協力し，より良い教育活動を進めようとしていると思いますか。」

自己評価⑬では肯定的評価は 100%（A61%　B39%）と高い。前期と比べてもＡ評価が上がっている点については評価できる。また，保護者評価⑭も肯定的評価は 96%（A27%　B69%）と高い数値となっている。学校と保護者が連携し，同じ方向を向いて協力し合っていることが読み取れる。学校運営協議会の設立も模索されている中，今後は更に保護者・地域との連携を深めていきたい。そのためにも，学校からの情報発信を丁寧に行っていく。

【学校の指導に関わって】

保護者評価⑨「学校は，子供の困ったことや悩みなどに対応していると思いますか。」

保護者評価⑩「学校は，仲間はずれ・いじめ等を認めない指導をしていると思いますか。」

保護者評価⑨・⑩の肯定的評価は，⑨が 93%（⑨A22%　B71%）　⑩は 91%（A18% B73%）となっていることから，良い評価だと読み取れるが，C，D評価もある。また，A評価が少なくＢ評価の数値が多い。数値を受け止めて児童一人一人にしっかり目を向け，寄り添いながら，保護者からもさらに信頼される教育活動を進めていく努力を今後も進めていきたい。日々の指導等

を丁寧に行いながら，様々な職員研修等も教育活動に生かしていきたい。

保護者評価⑫の「学校は，保護者の相談に，ていねいに対応していると思いますか。」については，肯定的評価は 96%（A31% B65%）であった。ＣＤ評価も散見されることから，保護者に対する対応も引き続き丁寧に行う必要がある。児童や保護者の話をじっくりと聞き，一緒に考え対応をしていきたい。担任一人ではなく，学校体制で対応していくことが大切であると考える。

保護者評価⑧の「学校は，子どもの良さや努力を認めていると思いますか。」については，肯定的評価が 97%（A:27% B70%）である。Ｂ評価が多い点は気になるが，認められること，ほめられることは，子どもにとってうれしいことであり，自己肯定感を高めることにつながる。子供たちの良さを認め，その良さを保護者にも丁寧に伝えていくことも大切である。

【小中一貫教育について】

自己評価（教職員）⑫「小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し，そのための取組や教育課題を意識して行っている。」

保護者評価⑮「小中一貫校として，３校（白根巨摩中・白根飯野小・白根東小）が連携して行事や教科指導を行っていることを理解している。」

自己評価における肯定的評価は 100%（A28% B72%），保護者評価における肯定的評価は，90%（A20% B70%）となっており，全体としてはおおむね良好であると考えられる。しかし，自己評価におけるＡ評価が低いこと，保護者評価にはＣＤ評価も散見されることを考えると，職員の共通理解はもちろん，保護者への情報提供を丁寧に行うことが大切になる。

小中一貫校となり３年目となり，３校合同の取組も数多く行われるようになった。有意義な活動も多くあるので，積極的に保護者への情報提供も行っていきたい。

【まとめ】

今年度は，「令和の日本型教育」で示された個別最適な学習，協働的な学習を目指して授業づくりを進めてきた。その成果が校内研究にも表れている。自己評価・子供たちの評価・保護者評価，その評価においても，多くの項目で肯定的評価が高く，全体としては一定の評価を得ていると考えてよい。ただ，Ｂ評価が多いこと，ＣＤ評価が散見されることについては，改めて検証していく必要がある。

保護者については，一つ一つの項目について「（成果はあるのだろうけど）実際に見ていないからわからない」といった記述も見られる。やはり，子供たちの様子，とりわけできるようになったこと，頑張っていることなどを中心に，丁寧に情報提供を続けていくことが大事になる。

前述のように，これからは更に「開かれた学校」「開かれた教育課程」が求められ，保護者・地域と共に学校を創っていくことが求められる。校長をリーダーとして，全職員の共通理解の下，「チーム学校」として諸課題に取組と共に，保護者・地域との連携を強めて，学校運営を進めていきたいと考える。